

# 災害時における相談支援と 自立支援協議会の取組み



がんばろう！ 輝く柏崎

～さらなる未来へ～

新潟県柏崎市  
福祉課 若月 啓満



がんばろう！ 輝く柏崎 ～さらなる未来へ～

## テーマ1

「災害時における相談支援活動」について

# 新潟県中越沖地震の概要

発生時刻:平成19年7月16日(月)午前10時13分、震度:6強、マグニチュード6.8

災害時地震・津波速報 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震

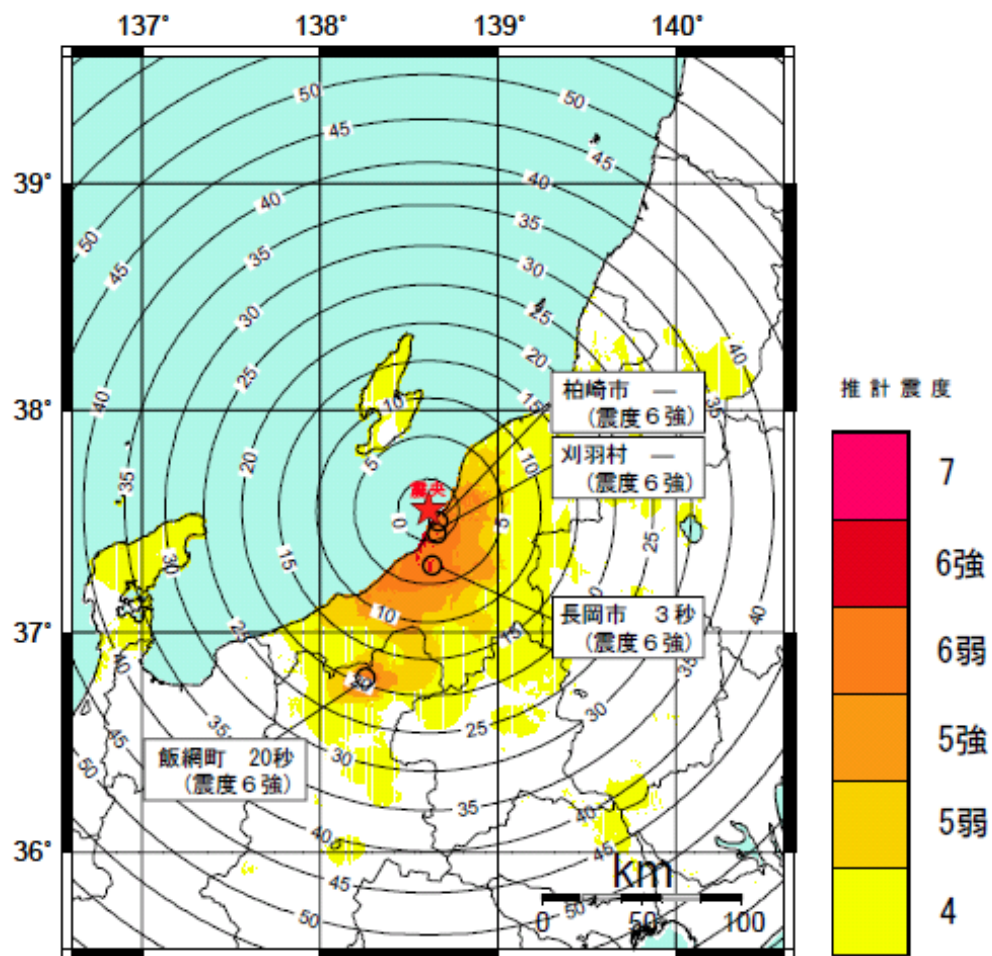


図1-3-2 緊急地震速報の第1報提供から主要動到達までの時間(秒)及び推計震度分布

## 被害の概要(20年7月1日現在)

		状況
人的被害	死者	14名
	重軽傷者	1,664名
住宅被害 ( )内住居	全壊	3,437戸 (1,120戸)
	大規模半壊	956戸 (676戸)
	半壊	6,299戸 (3,888戸)
	一部損壊	41,786戸 (22,661戸)
	合計	52,478戸 (28,345戸)
ライフライン	水道	40,260戸
		8月4日復旧
	ガス	30,978戸
		8月27日復旧
	電気	23,300戸
		7月18日復旧

# 行政の現状と相談支援との連携と協議会の必要性 1

---

## (行政の現状) ※柏崎市の場合

- 障害者福祉制度の変革  
措置制度→支援費制度→障害者自立支援法  
制度の改革により、市の情報の質が低下した
- 行政内部に点在する各種住民情報  
災害時にほとんど役に立たない
- 障害者固有の困難の理解と継続支援の困難  
モニタリング、アウトリーチが積極的にできない
- 多様なニーズへの障害福祉部署での対応の限界？  
市民、地域一帯となった「まちづくり」へ
- 特に大規模災害時は、職員も被災者、避難所対応...  
障害者支援に必要な人員（数）が確保できない

# 行政の現状と相談支援との連携と協議会の必要性 2

---

(期待される効果)

## ①相談支援事業者との連携

- ・ 専門性（身体、知的、精神、発達障害...）
- ・ 経験、体験...ノウハウ
- ・ 機動力を兼ね備えた人員の確保（アウトリーチ）
- ・ 行政にない“話しやすい身近な”雰囲気

## ②協議会の必要性

- ・ 地域の支援者が「顔見知り」であることの効果  
気兼ねなく話ができる、事業所のノウハウが他に波及

特に災害という非常時では、短期間で効果的かつ効率的な結果を出す必要があり、上記の効果は絶大であった。（と思う）

# 中越沖地震時点での要援護者の状況

(障害関係分) ※「柏崎市災害時要援護者支援に関する手引」から

		柏崎市
身体障害	人数 ( )内単身世帯	524名 (100名)
	対象者	身体障害者手帳第1種
知的障害	人数 ( )内単身世帯	238名 (0名)
	対象者	療育手帳A
精神障害	人数 ( )内単身世帯	321名 (105名)
	対象者	精神障害者手帳1、2級
合計		1,083名 (205名)

※65歳以上は除く

実際、上記の人だけが「要援護者」ではない

# 障害者相談支援センターの設置

- 新潟県(障害福祉課)が、中心となりセンター立ち上げ

(設置の趣旨)

障害者等(発達障害者その他の障害者含む)を支援するため、障害者相談支援センターを立ち上げ、障害者等及びその家族個々のニーズに応じた、きめ細かな相談支援(情報提供、助言、サービス利用の調整等)を行う。

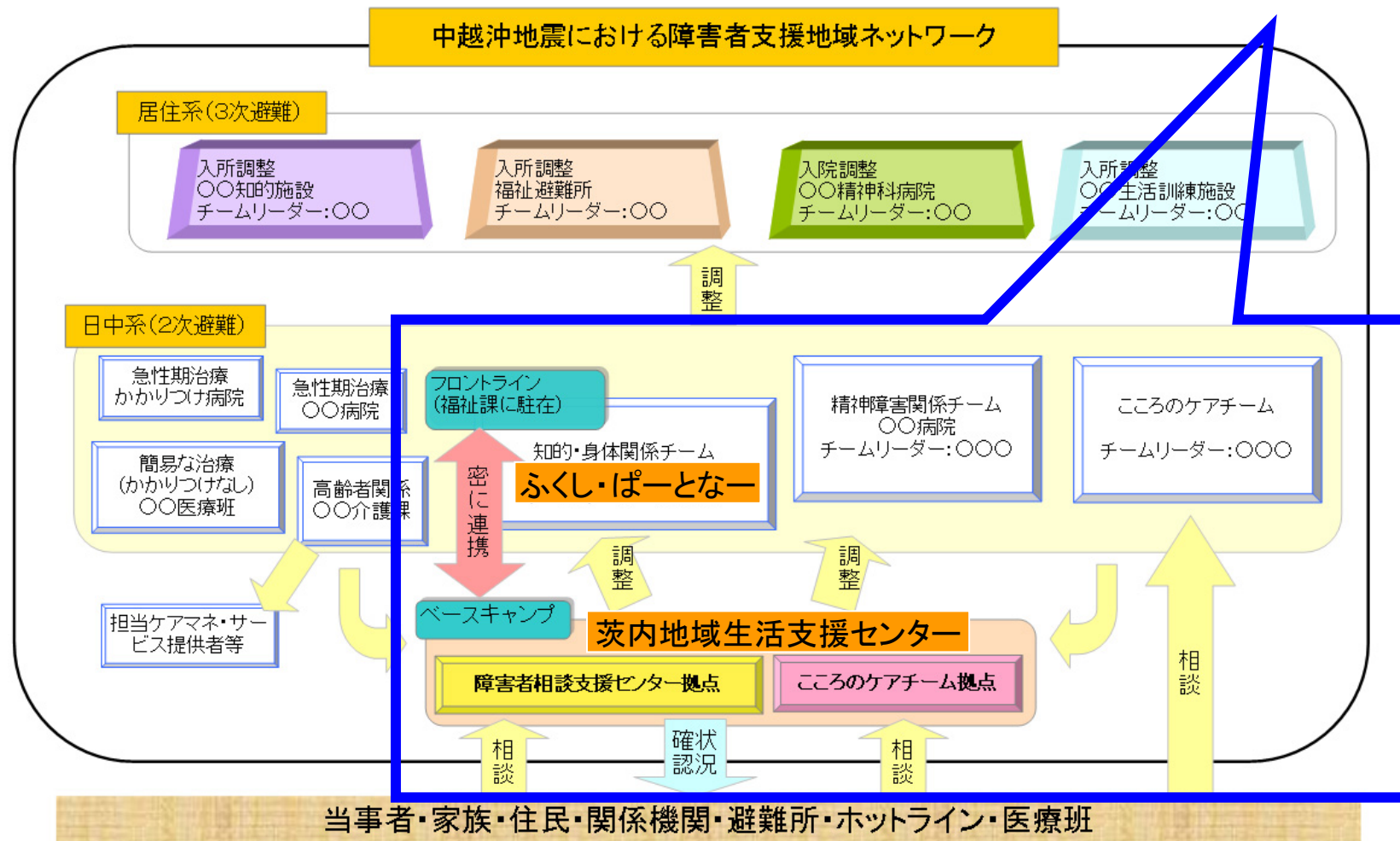
- 茨内地域生活支援センターを拠点とし、ふくし・ぱーとなーとの共同、連携により活動を相談支援活動を実施  
(ふくし・ぱーとなーは、市役所福祉課内を拠点とした)
- 2か所の拠点に県がコーディネートを行い県内の相談支援事業者を派遣(7/18~9/30までのべ275人)
- 柏崎市は、センターへの情報提供と相談員の把握したニーズを「支援」に繋げる等の**後方支援**に徹する

# 障害者相談支援体制のイメージ



茨内地域生活支援センターでの様子(2007.7.18撮影)

## 新潟県柏崎刈羽モデル





# 障害者相談支援センターの活動内容

県派遣コーディネーターと相談支援事業者、行政で日々、ミーティングを実施。活動方針やニーズ等を共有し、活動へのフィードバックを行う。

## ■ 7/18～7/23(発生後一週間)

「安否確認と生活状況の把握、緊急ニーズの確認」

(活動内容)

- 自宅及び避難所への訪問活動
- 電話による安否確認・状況把握



(サービス)

- 各種情報提供
- 関係機関との連絡調整
- ニーズ把握
- カウンセリング・・・等

## ■ 7/24～7/31(発生後二週間)

「収集された状況の分析」

⇒ ニーズを支援につなげる作業に着手

(活動内容)

- 継続支援の必要なケースへの訪問活動
- 緊急の個別支援期



# ニーズ等の傾向

	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半
児童	こころのケアに関する問い合わせが多い。片付け時の一時預かり。	避難所での見守り支援。ボランティアに遊んでもらう。	学校が始業することに関しての相談。	こころのケアに関する相談は、ほとんどなし。
身体障害	入浴・医療(透析等)に関するニーズが多い。	入浴、片付けに関する事。各種情報を求める声大。	情報を丁寧に渡す。視覚障害者のり災証明。	仮設住宅入居に伴う支援。
知的障害	水・食料・各種情報を求める声。	避難所での見守り。片付け時の一時預かり。	親から離れられない。親への支援。	仮設入居に伴った支援。最終スクリーニングで事例。
精神障害	避難所から〇〇さんは大丈夫?という問い合わせが多い。	1件のケースに長時間を要するケースが多い。	通常支援を徐々に再開。	きめ細かい支援を要するケースが多い。
高齢者	チラシを見て間違えて相談してくるケースが多い。		特に相談なし。	高齢であっても障害を合併しているケースの相談あり。

異なる専門性やノウハウを持つ相談員が互いに助言し、  
補い合いながら相談支援活動を実施

# (参考) 障害者相談支援センター相談件数 (19.7.18~19.9.30)

## 1 相談件数

障害種別	相談方法	電話	来所	訪問相談			計	発達障害再掲
				自宅	避難所	その他		
障害児		16	1	11	5	0	33	10
知的障害者		675	9	164	26	11	885	37
身体障害者		574	11	178	16	7	786	1
精神障害者		908	146	281	31	10	1,376	3
発達障害者		0	3	0	0	0	3	3
その他		29	0	6	41	1	77	40
計		2,202	170	640	119	29	3,160	94

注 「発達障害再掲」欄は平成19年9月9日までの件数。

## 2 相談支援の内容別件数（複数計上）

相談支援内容	対応状況	件数	内訳		
			相談及び情報提供	継続援助	他機関紹介その他
状況把握		3,447	2,934	499	14
居宅介護、日中一時支援、短期入所等の利用援助		7	4	3	0
障害児者福祉施設などの利用援助		7	5	2	0
市町村、医療機関等、関係機関との連絡調整		367	204	156	7
カウンセリング（傾聴を含む）		542	304	238	0
その他、個別の生活ニーズに応じた相談支援等		358	202	148	8
計		4,728	3,653	1,046	29

# ニーズ把握により実施したサービス

---

- 重度障害者への入浴サービス(柏崎市元気館)

7月23日～8月17日の間実施

仮設入浴などの利用が困難な障害者を対象に、  
自衛隊から元気館の特殊入浴風呂に給湯してもらい実施  
利用者 延べ266人

- 在宅障害児童の日中支援サービス(さざなみ学園)

8月6日～31日の間実施

学校の夏期休暇と重なったこともあり、被災世帯の  
負担軽減を目的に日中支援(介助)を実施  
利用者 実利用者数6人 延べ30人日

# 協議会があったので出来た支援

## ■ 19.9.19 自立支援協議会で中越沖地震の意見交換会実施

### (背景、目的)

- 行政と相談支援事業者で「支援者支援」の機会を設けるため、実施
- 地震後二ヶ月間の活動や心情を吐露し合い、お互いの労をねぎらう
- 「苦労話、改善点、地域の問題点、今の気持ち、上手くいった事例」を発表

### (意見交換要旨) 上手くいった事例

- 事業者同士の連絡体制ができあがり、各種団体の情報、支援策、義援金、ボランティア等をメンバーにメール、口コミ等で伝達し、皆で利用した
- 対応が困難なケースについて各事業所間で自主的に連絡を取り合い、安定した支援ができた
- 事業所で不要になった支援物資等を必要な事業所に配布した
- 複数の事業者で合同で入浴ツアーに行った
- 緊急的な短期入所、サービス決定など行政に相談しやすかった
- 協議会でできた“よい雰囲気”で臨時的なサービスが早く実現できた(入浴等)
- 養護学校等とも同じ目線で支援(一時受入)をしてもらった